



三田市の文章生成AI活用の取り組み状況について

2024年3月15日

三田市

生成AI
活用紹介
ページ

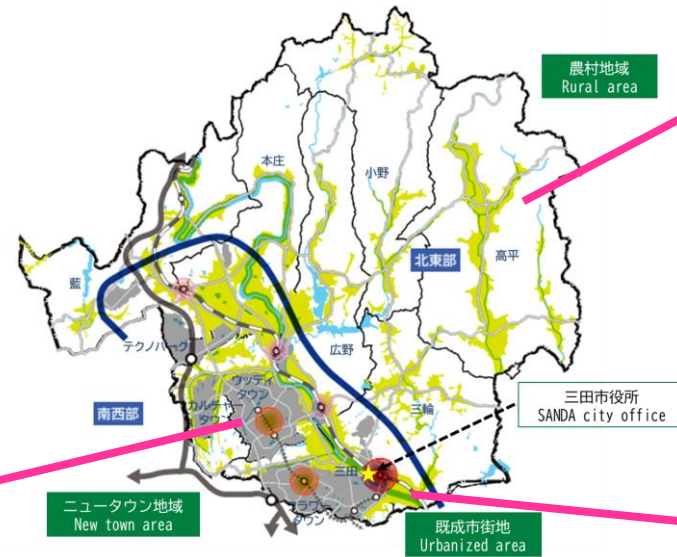


言語処理学会第30回年次大会（NLP2024）神戸国際会議場
公開用資料





神戸三宮から約40分～
大阪梅田から約40分～

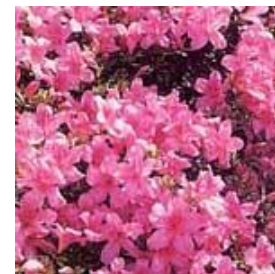


3つの特徴ある地域・エリア

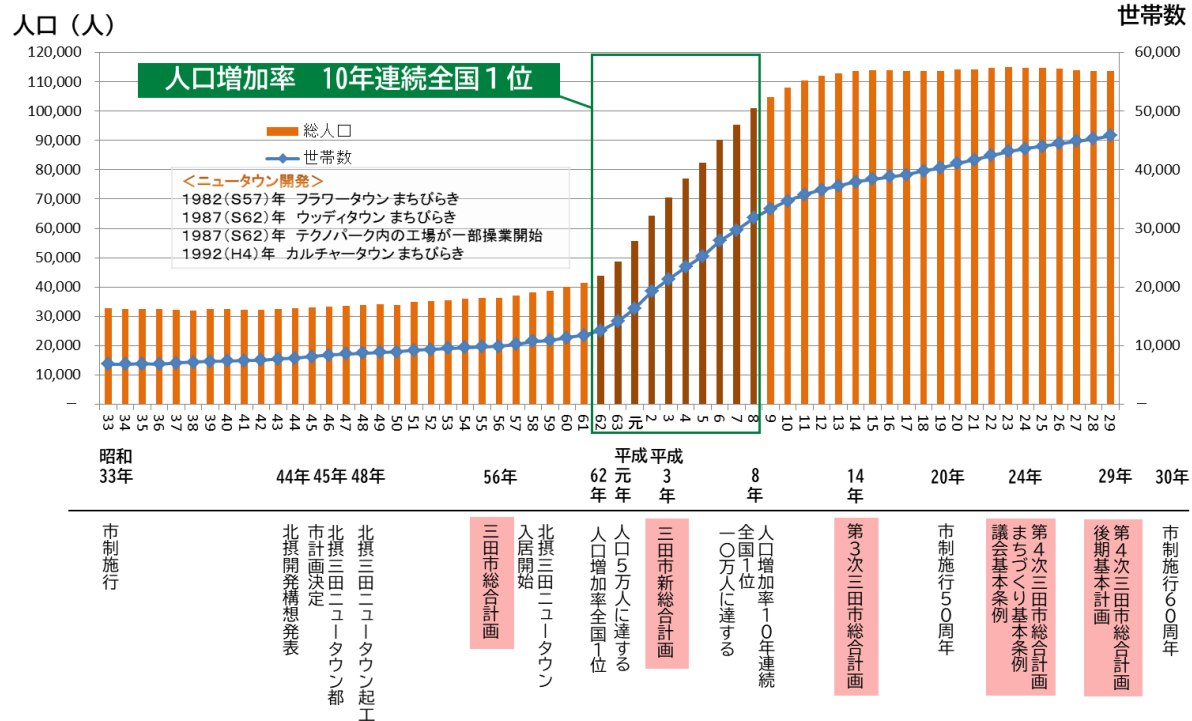
東西南北へアクセスしやすい

“人や物が行き来する場所”

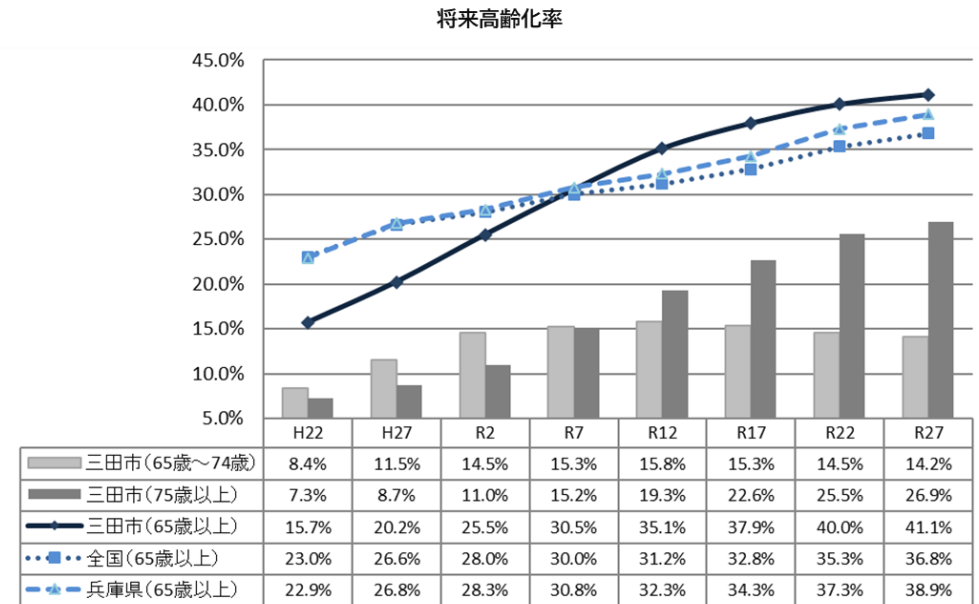
- 市政施行
 - 1958年7月
- 総面積
 - 210.32平方キロメートル
- 海拔
 - 最高697メートル、最低116メートル
- 位置
 - 東経135度13分、北緯34度53分
- 人口
 - 2024年2月末現在：107,015人（対前月末比▲115人）
- 姉妹都市
 - 豪州ブルーマウンテンズ市、米国キティタス郡、韓国濟州市
- 友好都市
 - 三重県鳥羽市
- 市の花、木
 - さつき、赤松
- マスコットキャラクター
 - キッピー、ハッピー、チャッピー



- 大規模なニュータウンの宅地開発で人口約3万人から約11万人に増加
- 近年は人口が減少している ※2024年2月末現在、人口107,015人（対前月末比▲115人）
- 今後、急速に高齢化が進む



引用元：さんだ里山スマートシティ構想より

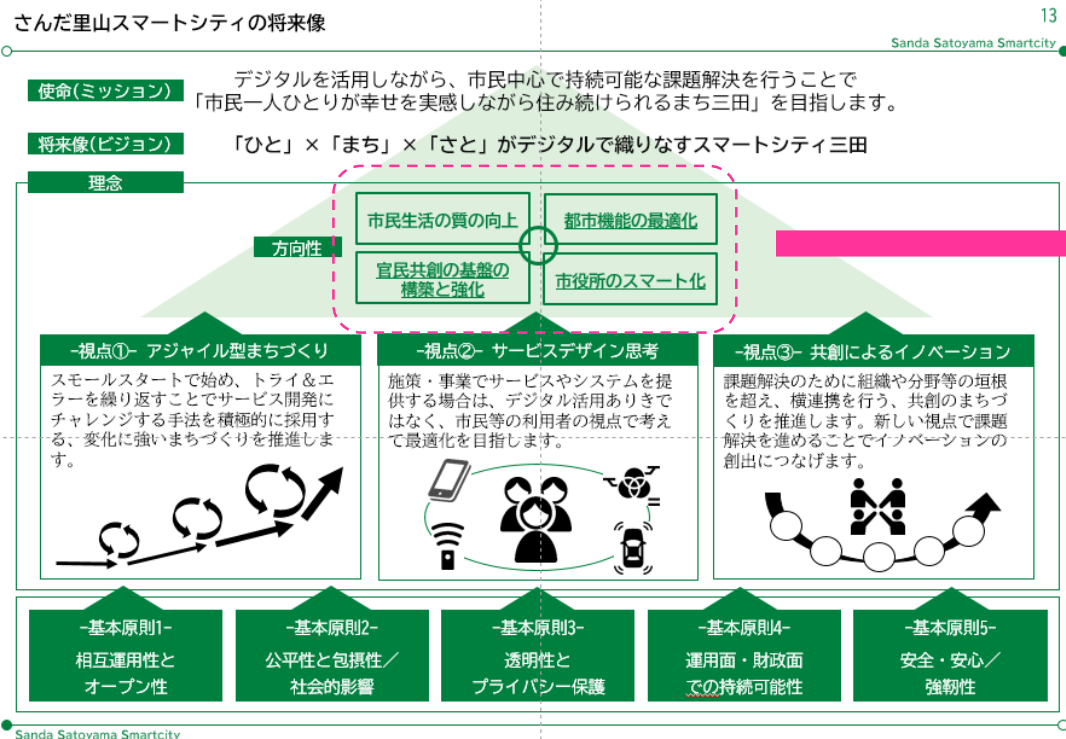


<資料> 全国・兵庫県：国勢調査（～R2）及び社会保障・人口問題研究所推計（R7～）
 三田市：住民基本台帳（～R2）・人口推計（R7～）

引用元：さんだ里山スマートシティ構想より

- デジタルを活用しながら「**市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田**」を目指す

- 取り組みの方向性として「市民生活の質の向上」「都市機能の最適化」「官民共創の基盤の構築と強化」「市役所のスマート化」の4本柱を定めた。



さんだ里山スマートシティ構想の概要

市民生活の質の向上

**デジタルで豊かな暮らし
デジタルで支え合う**

都市機能の最適化

**デジタルを使って
持続可能なまちに**

官民共創の基盤の構築と強化

**人・データの連携を推進
共通的な仕組みの採用**

市役所のスマート化

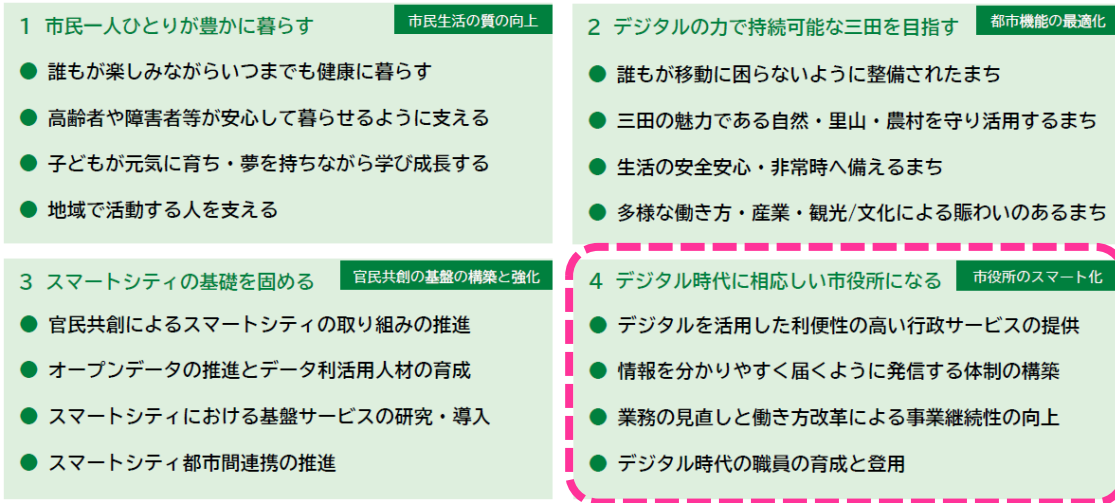
**市役所のサービスや業務
をデジタルで変える**

さんだ里山スマートシティ構想資料等は
https://www.city.sanda.lg.jp/shisei_joho/1/19986.html

Access →



- 本市は、さんだ里山スマートシティ構想の中で「デジタル時代に相応しい市役所になる」を掲げている。
- 取り組みの1つに「AIの活用」を位置づけ。



さんだ里山スマートシティ構想より

これまで

③ 業務の見直しと働き方改革による事業継続性の向上

[背景] 業務の見直しとデジタル技術等の活用により、人と費用のスリム化を図ることで、スマートな市役所になります。

- 業務の見直しにより事務を効率化・自動化し、正確性を向上させる
⇒ 業務の棚卸しの実施、汎用フォーム*49やRPA*50の活用推進
- AIの活用による事務の効率化と働き方改革につなげる
⇒ 音声認識サービス*51・AI-OCR*52の活用推進
- 書類の電子化により事務を効率化し、正確性を向上させる
⇒ 電子決裁・文書管理システム・電子契約の導入、電子入札の拡充
- いつでもどこでも業務を行える体制を整える
⇒ テレワークの活用推進、チャットファースト*53の実施

AIの活用による事務の効率化と働き方改革につなげる

- 2018年8月～10月 AI（人工知能）を活用したチャットボットサービス実証実験（LINE×AI）
- 2020年3月～ 音声認識アプリの導入（音声認識AI）
- 2020年10月～ AI-OCRの導入（光学文字認識AI）
- 2022年9月～翌年8月 車載カメラを活用した道路マネジメントシステム開発に係る共同研究（AIで路面損傷状況を解析）
- 2023年4月～ ビッグデータリスク情報プラットフォームの導入（SNS等から収集したリスク情報をAIで分析）



【記者提供資料】
令和5年5月2日
総合政策部未来戦略室
スマートシティ推進課(担当:松本)
直通:559-5096(内線:2346)

ChatGPTの戦略的な活用に向けた庁内研究チームを設置

三田市は、さんだ里山スマートシティ構想の中で「デジタル時代に相応しい市役所になる」を掲げて取り組んでいます。

このたび、自然言語型の人工知能チャットボットである ChatGPT (チャットジーピーティ) を業務で活用することを目指し、活用場面の調査や利用ルールの策定などに取り組む研究チームを庁内に設置しました。国内外の動向を踏まえつつ、先進的に取り組む他の自治体との連携や、有識者からのアドバイスを得ながら、今秋を目途に導入のガイドラインの確立を目指します。

<ChatGPT とは> ※ChatGPT からの回答を修正して掲載

ChatGPT は、OpenAI 社が開発したツールで、自然言語処理を使用して、人と人工知能とのやりとりを通じて、人々に役立つ情報やアドバイスを提供することができます。ChatGPT は、チャット形式で質問に答えたり、会話を続けたり、文章を生成したりすることができます。

1 取り組みの方向性

ChatGPT は、国においても活用の指針や運用基準などについて研究・検討されている段階であり、現状その導入は各自治体の判断になります。また ChatGPT は、ユーザーからの質問内容を ChatGPT の教育のために収集し、トレーニングすることで常に性能改善していることから、活用には IT リテラシーが求められます。現段階では、以下のような方針で今月下旬から一部の部署で試験的に利用を始め、今秋以降の本格的な導入に向けて検討を進めます。

- ① とりあえず使ってみて、どういうものかを体験する。
- ② ChatGPT の回答をそのまま公文書や公開文書として使わない。
- ③ 個人情報など、機密性の高い情報は利用しない。
- ④ あくまでも業務の参考程度の活用とする。
- ⑤ ChatGPT の回答内容は慎重かつ十分に精査し確認する。

- 2023年4月28日 ChatGPT推進体制設置の方針を決定(市長協議)
- 2023年5月2日 プレスリリース「ChatGPTの戦略的な活用に向けた庁内研究チームを設置」

ChatGPT・AI活用検討ユニット

- 2023年秋以降の本格的な導入に向けて、活用場面の調査や利用ルールの策定等に取り組む。
- 実務担当者レベルで定期的に会議を実施
 - 5月29日に第1回会議を開催(計7回程度を開催)
- 各課の役割
 - スマートシティ推進課(企画調整、事務局、他の自治体との連携)
 - 政策課(庁内調整、事務マニュアルの改訂)
 - デジタル戦略課(利用環境の整備、セキュリティポリシー)
 - 総務課(文書法制、個人情報保護)

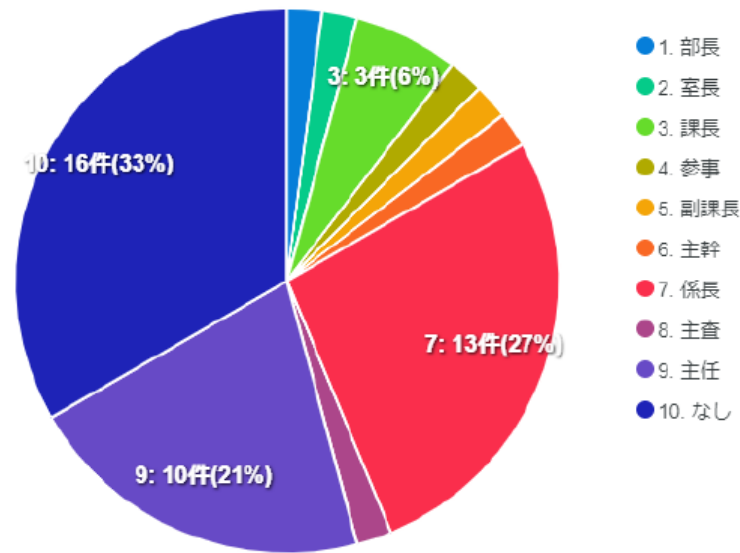
2 推進体制



- 庁内各課でChatGPTやAI活用を希望する職員を集めた「**庁内ChatGPT・AI活用コミュニティ**」を立ち上げ
 - 庁内各課のニーズの把握や活用アイデアを収集
 - LoGoチャットの専用グループに参加（2023年6月12日より始動、参加者53名）
- コミュニティ参加にあたり簡易なアンケートを実施

①参加者の役職は？

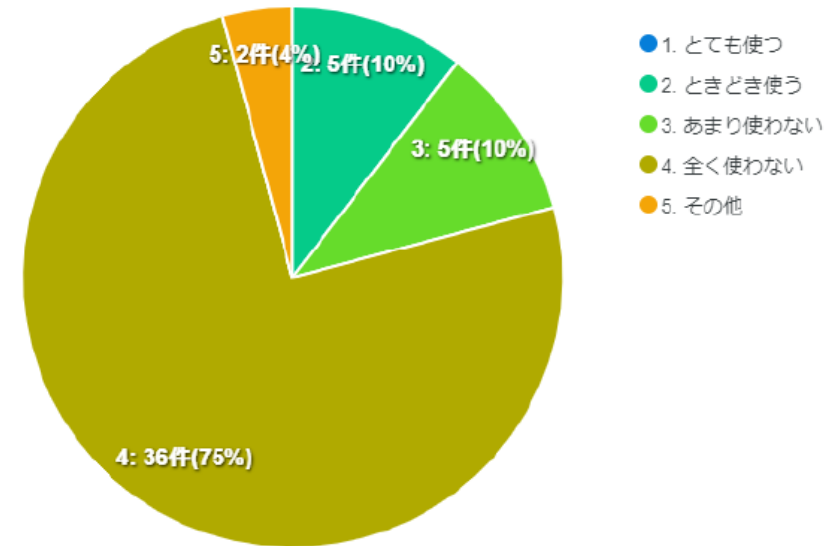
- 若手を中心に監督職以下で約80%を占める



参加者の役職別割合（2023年6月頃調査）

②ChatGPTをどの程度使っていますか？（プライベート利用を含む）

- 全く使わないと回答した人が75%
- とくとき使う人が約10割ほど



どの程度使っているか（2023年6月頃調査）

ChatGPT等の生成AIの業務利用について（通知）

昨今のChatGPT等の生成AIをめぐる技術革新は、様々な利点をもたらす一方、機密情報の取扱い、個人情報や著作権の保護といった課題が懸念されています。その上で、行政分野での活用を推進するには、活用方法によってリスクが生じることを十分に考慮し、適切なガイドラインを策定することが重要です。

そのため、適切なガイドラインを示すまでの間、各所管課の業務として、ChatGPT等の生成AIを活用することは見合わせるように貴課職員に周知徹底を図られるよう通知します。特に庁内ネットワークから、ChatGPT及びChatGPTのAPI等を活用した外部サービスの活用は行わないでください。

なお本市は、ChatGPTの戦略的な活用に向けた庁内研究チーム「ChatGPT・AI活用検討ユニット」を設置し、ChatGPT等の生成AIの本格的な導入に向けて検討を行っており、今後利用環境の整備を進めるとともに、合わせてガイドラインの策定を目指しています。詳細が決まり次第、別途通知を行う予定です。

- ChatGPT等の生成AIの業務利用に関する注意喚起について事務連絡を発出
- 庁内ネットワークからChatGPT及びChatGPTのAPI等を活用した外部サービスの活用を禁止
- **ChatGPT等の生成AIの本格的な導入に向けて検討を行っており今後利用環境の整備を進める旨を合わせてお知らせ**



- 日時 2023年6月14日 9:30～11:00
- 目的 ChatGPTという言葉を知ったことがあっても、どのようなシーンでどのように使うか知りたい職員が、ChatGPTに関する理解を深めることができるようになること。
- 講師
 - 奥村 紀之（おくむら のりゆき）氏 [神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 都市生活学科 専任講師]
 - 東 宏一（ひがし こういち）氏 [総務省経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー、(株)Groove Designs 取締役]
- 内容
 - 三田市のChatGPTに関する取り組み状況紹介（三田市スマートシティ推進課）
 - 講演「ChatGPTの効果的な活用に向けて～スキル別の習熟のススメ～」（奥村様）
 - デモンストレーション

公募制の研修にも関わらず約50名が参加するなど注目度・期待度が高かった



- セミナーで伝えなかったこと
 - GPT (Generative Pre-trained Transformer) とは？ ChatGPTとは？
 - ChatGPTには、どのように日本語が見えているのか？ ChatGPTの気持ちになって考えてみる
 - 利用者のレベルに応じて活用（会話機能の活用から始める） など

ここまでのまとめ

- ChatGPTは我々日本人が思うようには日本語を見ていない
 - うまく動作しないときは表現を変えてChatGPTが知っていそうな語を選ぶ必要がある
 - トークナイザーの動作を予測できれば、さらに踏み込んだ指示を与えることもできる
- ChatGPTに限らずコンピュータシステムは与えられた指示にのみ従って動作する
 - 曖昧な指示や察して下さいというような指示ではうまく動作しない
 - 可能な限り明文化して指示を与える必要がある



- ✓ ChatGPTは優秀な秘書（しかも日本語は母語ではない?!）
- ✓ 優秀な秘書でも指示が悪いと十分な成果が発揮できない
- ✓ 秘書のことを知らないと適切な指示を出せない
- ✓ 秘書の特徴を正しく知ることから始めることが重要！

ChatGPTの特徴を知ろう！

- 2023年7月10日に試行版のガイドライン策定と全庁的な試行利用を開始する旨をプレスリリース「ChatGPT等の生成AIの試行利用を開始～本格的な導入に向けた検討を進めています～」



【記者提供資料】
令和5年7月10日
総合政策部未来戦略室
スマートシティ推進課(担当:松本)
直通:559-5096(内線:2346)

ChatGPT等の生成AIの試行利用を開始 ～本格的な導入に向けた検討を進めています～

三田市は、さんだ里山スマートシティ構想の中で「デジタル時代に相応しい市役所になる」を掲げ、取り組みの1つとして、ChatGPT等の生成AI（以下、「生成AI」という。）を業務で活用することを目指しています

このたび、生成AIの利用に関するガイドライン（試行用）を策定し、全庁的な試行利用を開始することになりました。生成AIの利用にあたり、個人情報等の保護に留意しつつ、業務効率・生産性の向上に引き続き取り組んでいきます。

1 試行利用の概要

- ①試行期間 令和5年7月18日～9月30日（予定）
- ②対象者 三田市職員（全庁の職員が幅広く参加）
- ③利用環境 株式会社トラストバンク「LoGo AI アシスタント bot 版」
※本市が導入するビジネスチャット上で利用可能なサービス

2 利用ガイドライン（試行用）の策定

全庁的な試行利用の開始にあたって、「三田市生成AIの利用ガイドライン（試行用）【参考資料①】」を策定しました。今後、国や地方公共団体のガイドライン策定の動向も踏まえて、今秋を目途に利用ガイドラインの改定を進めます。

3 取り組み状況

- 5月 ChatGPTの戦略的な活用に向けた取り組みを進める旨を公表
活用場面の調査や利用ルールの策定等に取り組む研究チームとして「ChatGPT・AI活用検討ユニット」を設置（＝推進体制の確立）
- 6月 庁内各課でChatGPTやAI活用を希望する職員を集めるため「庁内ChatGPT・AI活用コミュニティ」を立ち上げ（＝二ーズ把握）
市職員を対象にChatGPTについて知るための研修を開催（＝人材育成）
【参考資料②】
兵庫県電子自治体推進協議会総会の「ChatGPT等生成AI意見交換会」において本市の取り組み状況を他市町に紹介（＝自治体間連携の推進）

4 今後の取り組み（予定）

- 7月 全庁的な試行利用の開始
- 8月 市職員を対象に実機を使ったハンズオン研修を開催（＝スキル習得）
- 10月以降 ガイドラインの改定 → 本格的な導入を目指す

2023年7月10日三田市記者提供資料

- 令和5年7月に試行版のガイドラインを策定
- 令和5年1月に一部修正を加えてガイドラインを策定
- 他の自治体も利用できるようにさんだ里山スマートシティポータルサイトに公開中
 - ChatGPT等の生成AIの活用
 - https://www.city.sanda.lg.jp/shisei_joho/1/22601.html

生成AI利用の主なルール

- ✓ 個人情報や守秘義務のある情報など機密性の高い情報を入力しないこと。
- ✓ 生成されたものは著作権や知的財産権保護の観点から注意して利用すること。
- ✓ 生成されたものは虚偽の内容も含まれることがあるため回答の根拠や裏付けを必ず自ら確認すること。
- ✓ 生成AIの回答を対外的にそのまま使用する場合はその旨を明記すること。

ガイドラインを読んでからChatGPTを使うこと！

三田市生成AIの利用ガイドライン
令和6年1月制定

1 目的
生成AIは、業務効率の改善や新しいアイデア出し等に役立つ反面、入力したデータがバックグラウンドで学習され、第三者の回答に利用される可能性がある等、情報が他者に漏洩・拡散されるリスクがある。また入力するデータの内容や生成物の利用方法によっては法令に違反したり、他者の権利を侵害したりする恐れがある。本ガイドラインは、三田市情報セキュリティポリシー（第2章9 外部サービスの利用）に基づき、三田市職員が業務でChatGPT等の生成AI（以下「生成AI」という。）を利用することに関して、遵守すべき事項を定めるとともに、本市の業務における生成AI利用に関するルールを示すことで、個人情報などの市民の権利、財産を守ることを前提に生成AIを利用することを目的として解説するものである。

2 本ガイドラインが対象とする生成AI
本ガイドラインが対象とする生成AIは、人工的な方法により学習、推論、判断等の知的機能を備え、かつ、質問その他の電子計算機に対する指令に応じて当該知的機能の活用により得られた結果を自動的に回答するよう作成されたプログラ



ガイドライン公開中

三田市生成AIの利用ガイドラインより抜粋

ガイドライン

三田市生成AIの利用ガイドライン(令和6年1月策定)

[三田市生成AIの利用ガイドライン\(PDFファイル: 569.8KB\)](#)

[三田市生成AIの利用ガイドライン\(Wordファイル: 26.7KB\)](#)

ガイドラインの修正情報

令和5年7月に策定したガイドライン(試行用)を修正し、令和6年1月にガイドライン策定しました。修正した内容は次の通りです。

- 1ページ
 - (修正前)その他情報セキュリティ管理者及びネットワーク管理者の許可を得たもの
 - (修正後)その他所属長及び情報セキュリティ所管課長の許可を得たもの
- 3ページ
 - (追加)6-4生成AIによる生成物であることの表示
 - (追加)7その他

三田市生成AIの利用ガイドライン(試行用)(令和5年7月策定)

[三田市生成AIの利用ガイドライン\(試行用\)\(PDFファイル: 551.9KB\)](#)

[三田市生成AIの利用ガイドライン\(試行用\)\(Wordファイル: 25.7KB\)](#)

- みなと地域貢献寄付型ファンド「三田市とともに」(終了)
- 市からのお知らせ
 - 2024年02月28日 市内施設にネーミングライツ・パートナーを募集しています
 - 2024年02月06日 [パネル広告事業者の募集について](#)
 - 2024年02月24日 [ハッピーワーク・ハッピーライフ〜ワークライフ・バランス・パネルディスカッション〜](#)
 - 2024年02月06日 [三田市議会議員選挙のお知らせ](#)
 - 2024年02月28日 [市庁舎トイレに広告を掲載しませんか？](#)

さんだ里山スマートシティポータルサイトでの公開の様子

- 三田市では、職員がChatGPTをより安全にいつでも気軽に利用できる環境として、ビジネスチャット（LoGoチャット）のサービスである「LoGo AI アシスタント bot 版（株式会社トラストバンク）」を採用
 - 入力データが学習目的で利用されないことや個人情報の入力を抑止する機能など
 - 今後も様々な機能が順次アップデートされていく見込み。
- 令和5年7月18日より全庁的にGPT-3.5とGPT-4の試行利用を開始し、令和5年10月からはGPT-3.5を導入、令和6年4月からはGPT-4に切り替える予定
- ガイドラインの確認を行ったうえで利用するように案内（庁内グループウェアでお知らせ）

標 題：【利用者募集！】ChatGPTサービスの全庁試行 始まります！
宛 先：全職員
差 出 人：デジタル戦略課長、スマートシティ推進課長

7月10日の掲示板でアナウンスしていた「ChatGPTと連携した生成AIサービスの全庁試行」について、
本日7月18日より試行を開始いたします！
試行にあたり、サービスを利用したい職員は下記をご確認ください。

▼試行期間
7月18日～9月30日（予定）

▼利用サービス
LoGo AIアシスタントbot版（LoGoチャット上で利用できるサービスです）

▼サービス利用の流れ

- 生成AIサービスを利用するにあたり、情報の取扱いを誤ると重大な事故につながる危険性があります。
- 試行利用を希望する職員は、**添付のガイドラインをよく読み**下記URLにお進みください。
（フォーム回答時に利用開始方法が表示されます）
[https://\[redacted\]](https://[redacted])（LGWAN接続）

▼留意点

- 添付の利用マニュアルは三田市職員のみが利用できます。
庁外への持ち出し等は禁止されていますので取扱いに注意してください。
- 「LoGo AIアシスタントbot版」は入力した情報がAIに学習されないサービスですが、**個人情報や機密情報の入力は絶対に行わないでください。**
- 生成された回答には**誤りが含まれる可能性があるため**、内容を精査した上で、あくまで業務の補助として活用してください。

▼その他

- 利用対象者は全職員です。ご興味がある方は奮ってご利用ください。
- 業務での活用方法等については、改めてお示しする予定です。

庁内グループウェアで試行が始まる旨をお知らせした内容

Q1. 氏名・職員番号・所属名・内線(外線)を記入してください **必須**

氏名

氏 **必須** 名 **必須**

職員番号 **必須**

部署名 **必須**

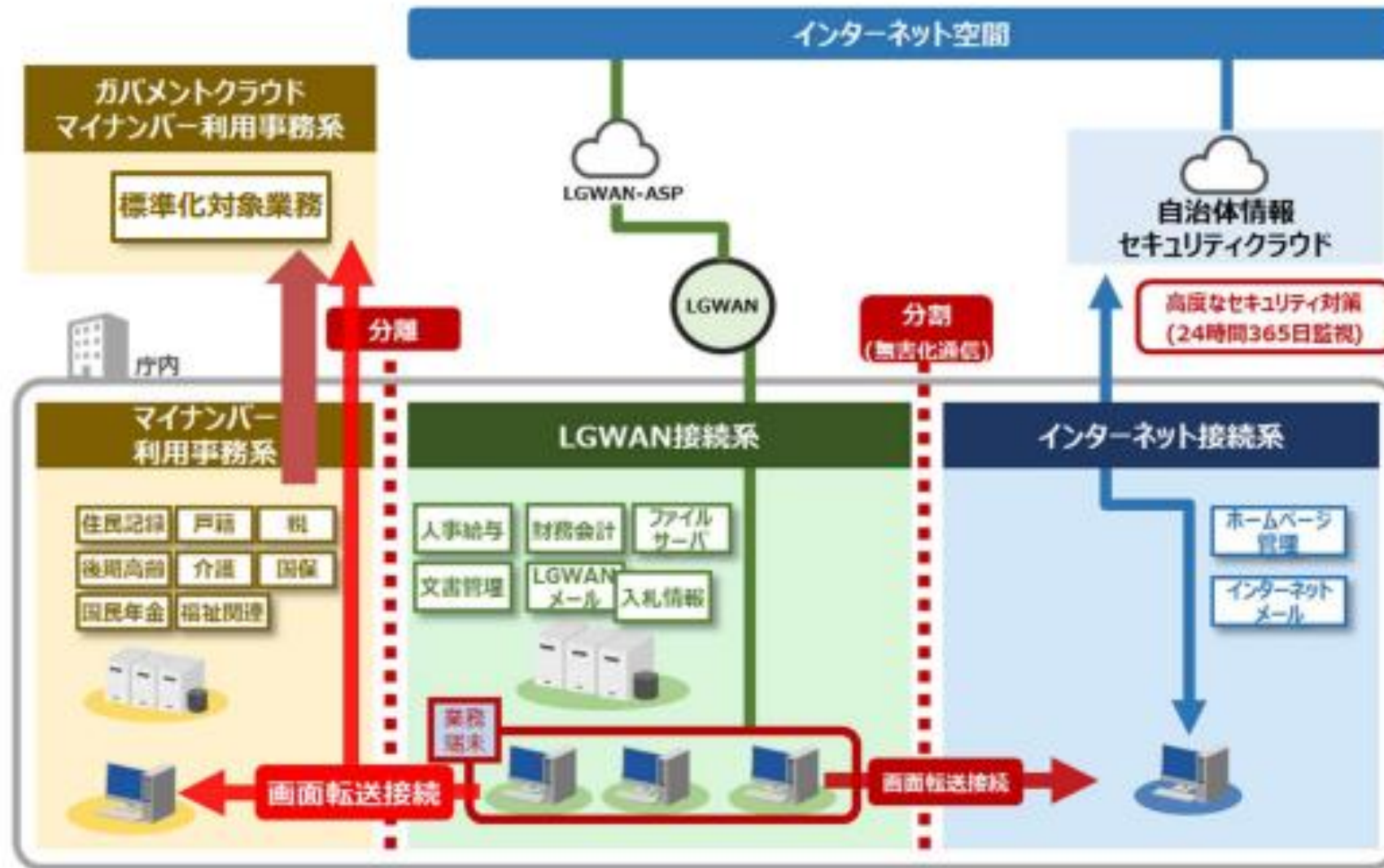
内線(外線) **必須**

Q2. 私は、「三田市生成AIの利用ガイドライン(試行版)」を遵守し、生成AIを利用することに同意します。 **必須**

同意 **必須**

同意する

三田市生成AI利用同意フォーム（LoGo AIアシスタント）



出典：総務省資料より

三田市はLGWAN接続系がメイン端末のためSaaS等のクラウドサービス利用に制約がある

- 日付 2023年8月3日 ①10:00～12:00 ②14:00～16:00
- 目的 ChatGPTを業務で活用したい職員が、適切な指示文（プロンプト）を作成するスキルを習得できるようにする。パソコンを使ったハンズオン形式の研修により、市職員がChatGPTを使うことに慣れるようにする。
- 講師
 - 奥村 紀之（おくむら のりゆき）氏 [神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 都市生活学科 専任講師]
 - 東 宏一（ひがし こういち）氏 [総務省経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー、(株)Groove Designs 取締役]
- 内容
 - アイスブレイク（東様）
 - 第1回ChatGPTセミナーを振り返って（奥村様）
 - ChatGPT×自治体業務ハンズオン（奥村様、東様）
 - 質疑応答・全体振り返りとTips紹介（奥村様、東様）

第1回ChatGPTセミナーの内容を復習
したあと”とにかく使うことに慣れる”



- 日付 2023年9月21日 ①10:00～12:00 ②14:00～16:00
- 目的 ChatGPTの試行を振り返り、ChatGPTをどのように使ったのか、参加者同士で共有し、活用方法に関する知見を深めること。ChatGPTを本格的に導入した場合に活用できそうな場面を洗い出すこと。
- 講師
 - 東 宏一（ひがし こういち）氏 [総務省経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー、(株)Groove Designs 取締役]
- 内容
 - アイスブレイク（三田市スマートシティ推進課）
 - ワーク①：自分たちの業務を振り返ってみよう！（東様）
 - ワーク②：ChatGPTを使って取り組むユースケースシナリオを作ってみよう！（東様）
 - まとめ・感想をシェア（東様）

試行利用の集大成として振り返って
どんな業務に使えるか洗い出す



標 題：あなたの“相棒”活用事例紹介（テーマ：食育と地産地消について説明）

宛 先：全職員

差出人：スマートシティ推進課長

本市では、職員の皆様の“相棒”となる ChatGPT を LoGo チャットの中で使えるようにしていますが、どのように使えばよいかイメージを膨らませるため、活用事例をお伝えします。

【テーマ】文章生成支援 説明資料作成 食育と地産地消について説明



<活用事例大募集>

「こんな用途で使ったよ！」という、ChatGPT を推進する職員の心が救われるような情報提供をお待ちしております！

<LoGo チャットで ChatGPT を使ってみたい人>

「今から利用してみたい！」という方は下記掲示板をご確認のうえ、ご利用ください。

<問い合わせ先>

部署名：スマートシティ推進課

担当者：[REDACTED]

連絡先：LoGo チャット・メッセージ ([REDACTED]、[REDACTED])

内線 (2241、2242) 直通 (559-5096)

- ChatGPTセミナーで洗い出した活用事例や、庁内職員が業務で試行した活用事例を資料にまとめて、全庁で共有
- 2023年12月より随時実施

【文章生成支援】説明資料作成_食育と地産地消について説明①

背景・狙い 小学生に対して「食育」と「地産地消」をテーマにお話しをすることになった。どのように説明すれば理解してもらえるのか悩ましい。

指示文

「食育」と「地産地消」の関連性は、何を説明すれば良いか教えてください。小学生が理解できる内容で説明してください。

文章で意味が伝わるように書くことや単語を「」などで区切ることで日本語が苦手なChatGPTが文章の内容を理解しやすくなります。分かりやすく具体的に書くことが重要です。



回答

「食育」とは、食べ物について学ぶことや食べることに関する知識や考え方を身につけることを指します。「地産地消」とは、地元で生産された食材を消費することで、地域の農業や食文化を守り、環境にも配慮した食生活を実現することを目指す運動です。

両者の関連性を説明するために、お菓子の例を使って説明してみましょう。たとえば、小学校で学ぶ際に、「お菓子を作ろう！」というカリキュラムがあったとします。

まず、「食育」とは、お菓子を作る際に使われる材料や作り方について学ぶことです。たとえば、小麦粉や砂糖、牛乳などの材料がどこから来るのかを学ぶことができます。また、お菓子を作る際の衛生や栄養バランスにも気を配ります。これにより、お菓子を作る過程での安全性や健康について考えることができます。

次に、「地産地消」とは、地域で生産された材料を使ってお菓子を作ることです。たとえば、地元の小麦や砂糖、牛乳などを使うことで、地元の農業や生産者を応援することができます。また、長い距離を運ばないため、環境にもやさしいです。さらに、地域の特産品や伝統的なお菓子を作ることで、地元の文化を守ることができます。

したがって、「食育」と「地産地消」は、お菓子を作る際に使われる材料の知識や地域の食文化の大切さについて学ぶことができます。地元で生産された材料を使うことで、おいしいお菓子を作るだけでなく、地域を元気にすることや環境への配慮、文化の継承にも貢献することができます。

効果・留意

- 理解してもらいやすいように説明するための具体例を示してくれる。
- 市職員では思いつかないような視点（今回は小学生の視点）でアイデアを提供してもらえる。

その後の作業

- 「食育」と「地産地消」の関連性を説明するために「お菓子作り」を題材にすることにし、ChatGPTからの回答を修正して、説明に利用した。
- 「食育」と「地産地消」の定義については、国の資料等から引用して適切な文章で説明することにした。

標 題：【お知らせ】「おしえて ChatGPT」勉強会を実施できます
宛 先：各所属長様
差出人：スマートシティ推進課長
内 容：

今年度 ChatGPT の導入に向けて取り組む中で、複数回の集合型研修を実施し、利用方法について学ぶ機会をつくりましたが、業務の都合などで参加できず、「利用方法がわからない」という方もまだ多いかと思えます。

そのため、ChatGPT の利用方法を学ぶ「勉強会」を開催します（複数人規模で実施を想定）。希望される場合は、問い合わせ先までご連絡ください。※現在数名の希望者がいらっしゃいます。日程調整のうえ、順次開催します。



ご連絡・ご相談
お待ちしております

【再掲】LoGo チャットで ChatGPT を使ってみたい人へ
「今から利用してみたい！」という方は下記掲示板をご確認のうえ、ご利用ください。

[Redacted]

<問い合わせ先>

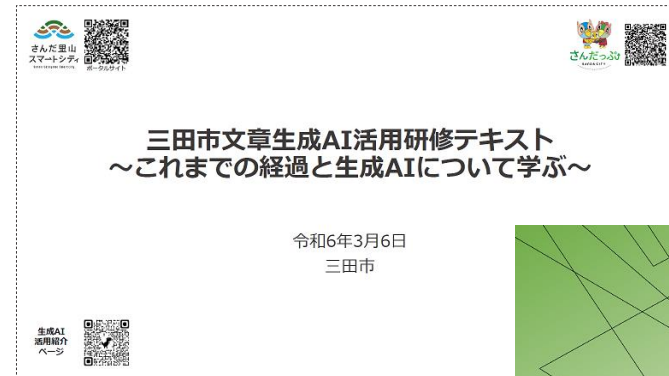
部署名：スマートシティ推進課

担当者：[Redacted]

連絡先：LoGo チャット・メッセージ（[Redacted]、[Redacted]）

内線（2241、2242）直通（559-5096）

- 集合型の研修を3回実施したが、業務の都合で参加できなかった職員も多いことから個別勉強会を開催（依頼にもとづき日時調整して実施）
- 三田市のChatGPTの取り組み経過や生成AIの特徴を説明した後に、ハンズオンを実施
- 東京都デジタルサービス局が2024年1月に公開した「都職員のアイデアが詰まった文章生成AI活用事例集」も利用
- 直近の開催状況
 - 2024年3月6日 午前：2人 午後：5人



三田市研修テキスト表紙



引用：東京都デジタルサービス局. "東京都デジタルサービス局ホームページ. https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/digitalservice/ai_prompt, (参照2024-03-14)

ChatGPTに聞いた文章 あなたは市役所職員で、少子化対策を担当しています。少子化を防ぐために有効な施策を考えてください。

GPT-3.5の回答

1. 子育て支援プログラムの充実：保育所の増設や待機児童対策、育児休暇の活用促進など、子育てを支援するための施策を充実させることが必要です。
2. 子育て環境の整備：公共施設や公園の整備、子供向けの学習や遊びの場の提供など、子育てをしやすい環境づくりに取り組むことが重要です。
3. 経済的な支援策の提供：経済的な負担が少ないように、子供を持つ家庭への経済的な支援策（児童手当や医療費の割引など）を提供することで、子育ての負担を軽減します。
4. 若者の定住促進施策：若者の地域定住を促すため、住宅支援策や就職支援策など、地域の魅力を高める取り組みを進めます。
5. 教育制度の見直し：充実した教育環境の提供や教育制度の見直しにより、子供の将来に対する不安を軽減し、子育てを支援します。
6. 公的広報活動の強化：少子化対策に関する情報を積極的に広報し、市民の関心を高めるような取り組みを行います。
7. 地域の活性化策：地域の魅力を高めるイベントや交流の場を提供し、若者や若い家族の移住促進を図ります。

GPT-4の回答

1. 子育て支援の充実：保育園や幼稚園を増やすことで、共働きの親でも安心して子どもを産み育てられる環境を整えます。シッターサービスや家政婦サービスの補助も考えられます。
2. 経済的支援：子どもを持つ家庭への経済的支援を増やす。子育て給付金の金額を増やしたり、子育て世帯に対する税制優遇を考えます。
3. 働きやすい環境の整備：育児と仕事を両立できる環境を整備します。企業に対しては、規定の休業日以上に休ませる義務を課したり、テレワークの導入を促進します。
4. 教育制度の改革：教育費の無料化や学習支援を充実させ、教育環境を整備します。子どもの視点を重視した施策を考えることで、子育てをしやすい社会をつくっていきます。
5. ファミリーサポート：高齢者や引退者を活用したボランティアのファミリーサポート活動などを組織し、地域全体で子育てを応援します。
6. 女性の社会進出支援：女性が仕事と家庭を両立できる社会を作るため、男性の育児参加を推進したり、週休2日制などの働き方改革を推進します。
7. 医療サービスの強化：不妊治療の支援を強化します。また、地域医療機関と連携し、子育て家庭が安心して利用できる産科・小児科の医療サービスを整備します。
8. 安心して産める環境の整備：「母子手帳」の活用や健康診断の充実など、妊娠から出産、育児までをサポートする体制を整えます。
9. 住環境の充実：都市計画において、子育てに適した環境を整える。公園や遊び場の整備、公共交通機関の利便性向上を行います。
10. 情報提供：子育て情報の提供を行います。専門機関や市民団体と連携して、子育て支援の情報を広く提供し、家族が安心して子どもを育てられる社会を目指します。

- ChatGPT自体は一企業であるOpenAI社の大規模言語モデル（LLM）であるGPTを活用したサービスだが、LLM・生成AIをどのように開発し、活用していくか、各社が競っている（今後の動向を注視）。
- LLMであれば、ChatGPTのような対話ベースのものが主流になる見込み。
- **ChatGPTは日本語を完全に理解していない**ので、日本語版のLLMの登場が望まれる（日本国内の企業も取り組み中）。
- ある程度、**コンピュータ（GPT）の気持ちを理解して使用しなければ、良い回答を得ることができない**ため、プロンプト（指示文）を書くスキル（プロンプトエンジニアリング）の習得が必要となる。
- ただ、**プロンプトエンジニアリングは重要だが、それより最初に、そもそも「ChatGPTで何ができるものなのか」「言語として何を見ているのか」を想定してコンピュータが理解しやすい入力を考えることが重要**である。

ChatGPT習得に向けた4ステップ



- 日付 2023年6月27日 13:55～14:55
- 概要 令和5年度兵庫県電子自治体推進協議会総会において「ChatGPT等生成AI意見交換会」を開催。生成AIの基本情報やその利用に係る県内市町の状況を共有した上で、安全・安心な行政利用について意見交換を行うもの。（県内多くの市町が参加）
- 内容
 - 生成AIの基本情報の共有
 - 事前アンケート結果の共有（県・市町におけるChatGPT等生成AIの利用状況）
 - 事例発表2団体（三田市、太子町）
 - 意見交換（先行自治体での導入手順や試行等の状況、安全安心な利用に係るガイドラインの作成の状況）



三田市の事例発表資料

- ChatGPT等の生成AIに関する実態や技術動向の把握に努め、市町での導入検討や利用を促進することを目的に「ChatGPT等生成AIの行政利用に向けた勉強会」を実施（兵庫県電子自治体推進協議会の調査研究事業に参画）
- 勉強会は県下17市町村で構成され、三田市は勉強会を運営するコアメンバー（8市：兵庫県、神戸市、姫路市、伊丹市、**三田市**、三木市、太子町）として、全5回開催する勉強会の調整と報告書（スタートアップガイド）の作成を担う。
- 勉強会は、テーマごとに生成AIサービス提供事業者や、生成AIサービスを積極活用している自治体に登壇いただき、活用シーンやサービス動向を学んだ。
- 本市が主体的に取り組んだ活動は次の二つ
 - 県下市町村（35自治体）へ「ChatGPT等生成AIの利用状況に関するアンケート調査」➡ ChatGPT等生成AIの導入状況や、利用時の課題感を調査し、結果を勉強会で報告
 - 生成AIサービス提供事業者リストの作成 ➡ 自治体が、ChatGPT等生成AIサービスの導入を検討する際に参考となるリストを作成
- 県主導で勉強会の報告書を作成。
- 報告書は兵庫県下自治体に配布される予定

「ChatGPT等生成AIの行政利用に向けた勉強会」開催概要

開催	担当テーマ	担当団体	
		(主担当)	
第1回	生成AI利用ガイドラインについて	兵庫県 (県情報政策課)	—
第2回	生成AIの活用事例と上手な活用法①	神戸市、伊丹市	加古川市、たつの市、佐用町、南あわじ市
第3回	生成AIの活用事例と上手な活用法②	兵庫県 (県情報政策課)	西宮市、西脇市、養父市、明石市
第4回	生成AIを組み込んだ主な製品・サービスの動向①	姫路市、三木市	宝塚市、高砂市、新温泉町、加東市
第5回	生成AIを組み込んだ主な製品・サービスの動向②	三田市、太子町	丹波篠山市、播磨町、芦屋市

・ 日付 2023年11月22日 15:00～16:00

概要

- ・ 株式会社トラストバンクが、自治体が抱える生成AIサービスの導入や利活用に関する悩みを解消すべく、実際にLoGoAIアシスタントbot版を利用する自治体のリアルな声を聞くことができる「LoGoAIアシスタントbot版 合同相談会」を開催
- ・ 100名以上の自治体職員が参加
- ・ ゲスト自治体として三田市が登壇し、取り組み状況の紹介や、意見交換を実施

内容

- ・ 生成AIサービスの導入のきっかけや背景
- ・ LoGoAIアシスタントbot版を採用した決め手
- ・ 導入に向けた研修などの実施
- ・ ガイドラインやルールの策定
- ・ 業務での実際の活用シーンと感じた効果
- ・ 生成AIサービス利活用の課題

【イベントレポート】日常的に使用するLoGoチャットとの組み合わせで、生成AIが身近に！ - Publitechファン

Publitechファン

TOP サービス紹介 導入事例 活用方法 お役立ち情報 サポート パブリテック事業 お問い合わせ 無料トライアル

トップ > イベント情報 > 【イベントレポート】LoGoAIアシスタントbot版 合同相談会 日常的に使用するLoGoチャットとの組み合わせ

無料トライアル受付中！

2023-12-08

【イベントレポート】LoGoAIアシスタントbot版 合同相談会 日常的に使用するLoGoチャットとの組み合わせで、生成AIが身近に！

イベント情報 LoGoチャット導入事例 LoGoチャット

無料トライアル受付中！

全国の自治体の約半数が利用中！
ビジネスチャットツール「LoGoチャット」

LoGoチャット
無料トライアル受付中！

お問い合わせする >

誰でも簡単にできる！地方自治体向け
手続き等デジタル化ツール「LoGoフォーム」

LoGoフォーム
無料トライアル受付中！

お問い合わせする >

LoGoチャット・LoGoフォーム
新規自治体様向け「合同説明会」を開催中！

自治体DX推進ツール「LoGoチャット」「LoGoフォーム」
3月 合同説明会 受付中！

オンライン情報 参加費ゼロあり 資料請求に無料

詳しく見る >

LoGoフォーム「はじめてのDX推進バック」サービス提供を開始！

『LoGoAIアシスタントbot版』は、自治体専用のビジネスチャットツール『LoGoチャット』からChatGPTが利用できるサービスで、2023年10月から本格提供を開始しました。

自治体様が抱える生成AIサービスの導入や利活用に関する悩みを解消すべく、実際にLoGoAIアシスタントbot版を利用されている自治体様のリアルな声を聞くことができる『LoGoAIアシスタントbot版 合同相談会』を開催しました！

100名以上の自治体職員様に参加いただき、大盛況のイベントとなりました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

本レポートでは、ゲスト自治体様へのインタビューパートの様子をお届けします。

引用：株式会社トラストバンク."【イベントレポート】LoGoAIアシスタントbot版 合同相談会 日常的に使用するLoGoチャットとの組み合わせで、生成AIが身近に！".株式会社トラストバンク. 2023-12-08. <https://publitech.fun/entry/2023/12/08/111444>, (参照2024-03-12)

• 自治体で文章生成AIを使えそうな主な用途（今のところ）

- アイデア出し
- 文章の校正
- 文章の言い換え
- 要約（現状はプロンプトの文字数に制約があるため一部利用に留まる）

• 自治体として今後の文章生成AIに期待すること

- 庁内のナレッジを自動参照する仕組み
 - 令和5年度に自治体の文章をアップロードして独自に読み込ませて回答生成に活用できるサービスを試したが回答精度が十分ではなかった。※正しく使えていないのかもしれない。アップロードした文章の質が悪かったか？
 - 某大学大学院の学生と連携して自治体の文章を活用、ファインチューニングを実施したプロトタイプを検証したが回答精度が十分ではなかった。
 - 自治体職員としては「手軽に使えること」を期待しているが、使えるものになるためには、相当の手間がかかるか？ ※コストが高く職員の手間がかかるサービスの採用は難しい

• 三田市の今後の取り組み

- GPT-4に切り替えて回答精度を向上させることで利用を促進
- ユースケースとそのプロンプトフォーマットを作成して全庁で共有
- 個別勉強会の継続的な実施 等

ChatGPTを効果的に活用できている専門家やシステムエンジニアではなく、**多くの行政職員が文章生成AIを自然に使える状態にするためにはどうすれば・・・**



to be continued...

- 三田市の取り組みを「さんだ里山スマートシティポータルサイト」で市内外に情報発信
- 今後も掲載コンテンツを順次拡大

さんだ里山スマートシティ
Sanda Satoyama Smartcity

さんだ里山スマートシティ構想 官民共創プラットフォーム 市民参加型スマートシティ さんだ里山スマートシティの取り組み さんだ里山スマートシティロゴマーク スマートシティアドバイザー・連携協定

さんだ里山スマートシティポータルサイトへようこそ

三田市では、令和2年10月から「さんだ里山スマートシティ」と題して、スマートシティの実現に向けて取り組んでいます。

様々な三田の課題について、ICT・IoT・AIなどのデジタル技術の戦略的な活用とデータ活用により「市民中心で持続可能な課題解決を行うスマートシティ」に取り組むことで、「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」を目指しています。

本ページでは、さんだ里山スマートシティの取り組みを紹介します。

新着情報ページのご案内

プレスリリース

新事業などプレスリリースについては、次の専用ページでお知らせします。

● [さんだ里山スマートシティプレスリリース](#)

更新されたページ

新着情報

さんだ里山スマートシティポータルサイト

新着情報

2023年06月27日 [さんだ里山スマートシティプレスリリース](#)

2023年06月21日 [自動車走行データによるデータ活用型スマートシティ推進事業](#)

2023年06月21日 [車載カメラを活用した道路マネジメントシステム開発に係る共同研究](#)

2023年06月21日 [路面状況把握に関する実証実験](#)

2023年06月06日 [遠隔相談窓口サービス「リモート市役所」実証実験\(終了\)](#)

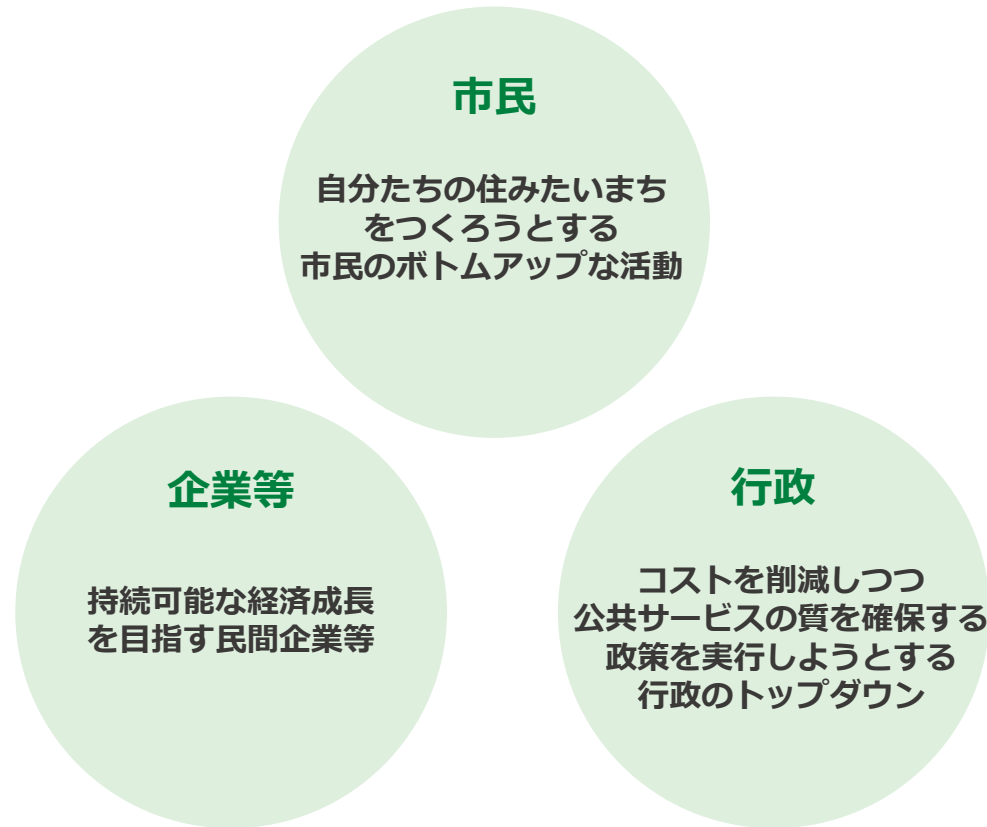
新着情報で直近の更新をお知らせ

Access →



https://www.city.sanda.lg.jp/shisei_joho/1/index.html

- 三田市が推進するスマートシティは「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」を目指すまちづくり
- 人を幸せにするために、デジタルを「どのように使いたいか」「使わないでほしいか」を考える・議論する



-視点①- アジャイル型まちづくり

スモールスタートで始め、トライ&エラーを繰り返すことでサービス開発にチャレンジする手法を積極的に採用する、変化に強いまちづくりを推進します。

-視点②- サービスデザイン思考

施策・事業でサービスやシステムを提供する場合は、デジタル活用ありきではなく、市民等の利用者の視点で考えて最適化を目指します。

-視点③- 共創によるイノベーション

課題解決のために組織や分野等の垣根を超え、横連携を行う、共創のまちづくりを推進します。新しい視点で課題解決を進めることでイノベーションの創出につなげます。

引用元：さんだ里山スマートシティ構想



共に創ろう 三田のスマートシティ



参考：安岡 美佳,ユリアン 森江 原 ニールセン「北欧のスマートシティ テクノロジーを活用したウェルビーイングな都市づくり」, 株式会社学芸出版社, 2022年12月, 17ページ